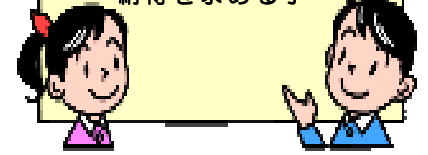


# 真龍小便り



真龍小学校の子ども

つながりを求める子  
かかわりを求める子  
納得を求める子



平成30年5月29日発行 No.4

## 青い鳥

校長 武田昌彦

童話「青い鳥」はメーテルリンクの有名な童話です。二人の子ども（兄、妹）が「幸せの青い鳥」を探しに旅に出ます。捕まえることができないまま旅は終わります。お母さんに起こされます。朝です。二人は家のベッドの中にいました。かごを見ると「青い鳥」が入っていました。「幸せの青い鳥」は家にいたのです。というお話です。本当の幸せは目の前にあるのです。目の前の幸せに気づいてください。というメッセージが聞こえてくる童話です。色々な見得（みえ）や欲。面子（めんつ）や意地。諸々が目を曇らせるのですよ。と言われているようです。気づかないと大切なものを見失ってしまうかもしれません。とても教えられた話でした。しかし、長年教師をしていると違ったメッセージが聞こえてくるようになりました。それは、魔法使いと旅に出るまでは家には「はと」がいただけなのです。間違いなく「青い鳥」はいませんでした。魔法使いと旅に出ます。「青い鳥」を見つけ、苦勞の末やっと捕まえます。しかし、その捕まえたはずの鳥はかごの中で「黒い鳥」になっていたり、死んでしまったり。再び「青い鳥」を捕まえるため旅をする。何回も挑戦する。最後まで捕まえることはできないまま旅は終わってしまう。しかし、気がつく「青い鳥」は自分の物になっていた。「青い鳥」を捕まえに行く旅。旅こそが試練だったのではないのでしょうか。

5月になり、学年が進み与えられる役割やその責任。難しくなっていく勉強。疲れも出てきた頃の連休。心身共にリラックスできたと思います。一息入れて再スタートです。少年団に入っている子達は練習、大会と忙しくなっています。運動会の練習もどんどん増えていきます。色々な場面で忙しくなっています。投げ出さず、最後まで挑戦しつづけてほしいと思います。全ての挑戦が「青い鳥」を捕まえるためなのです。

魔法使いは旅に連れて行ってくれませんが自分で「青い鳥」を見つけるための旅をすることはできます。子ども達一人一人に「幸せの青い鳥」を手に入れてほしいと思います。その旅は今、始まったばかりです。

## 6月のこよみ

日	曜	行事
1	金	遠足 町P連総会
2	土	
3	日	
4	月	町会(講話) 運動会特別時間割開始
5	火	内科検診(3年)
6	水	運動の日 内科検診(2年)
7	木	生きがい大学 内科検診(1年)
8	金	特別日課 委員会③
9	土	
10	日	
11	月	歯科検診(5年)
12	火	特別日課 係活動① 歯科検診(6年)
13	水	運動会全体練習 歯科検診(4年)
14	木	絵本読み聞かせ
15	金	特別日課 係活動②
16	土	
17	日	
18	月	特別日課 運動会全体練習 係活動③ 歯科検診(3年)
19	火	歯科検診(2年)
20	水	運動会総練習
21	木	歯科検診(1年)
22	金	特別日課 係活動④ 会場設営
23	土	運動会座席取り(18:00~)
24	日	運動会
25	月	振替休業日
26	火	保護者面談(7/27まで)
27	水	
28	木	
29	金	特別日課 委員会④ 心臓検診(1年)
30	土	管内子ども交流事業

## 今年度最初の避難訓練

5月16日、校舎の火災を想定したグラウンドへの避難訓練が行われ、厚岸消防署の方が適切に避難できているかどうか見守ってくださいました。子どもたちは真剣な態度で訓練に参加していました。さらにその後、消火器を使った4年生の消火訓練の指導もいただきました。

本校では年に4回の避難訓練を実施しており、今回は最初の訓練となりました。避難開始のアナウンスから子どもたちの避難完了までの時間は2分30秒でした。児童・職員合わせて300名程度の真小の規模を考えると、非常に短時間で避難できたと言うことで、消防の担当の方も驚かれています。年4回も避難訓練を実施する学校はそんなに多くはない（2回程度が多い）のですが、迅速な行動ができたのはそうした地道な訓練の成果とも言えます。

津波を想定したコンキリエまでの避難訓練も学年ごとに日程を決めて実施している最中ですが、地震等による災害は自宅にいる時間に起こる可能性も十分考えられます。万が一、津波が起こって自宅に子どもだけだった場合どこに避難すればいいのか等、日ごろからご家庭でも安全に対処できるようお子様と確認していただけるとありがたいです。

## 児童総会がおこなわれました

5月18日に児童総会が開かれ、各委員会の活動計画に対する質疑応答が行われました。それぞれの委員会に対して右下の写真のように各学級の児童からたくさんの質問や意見、要望が出され、各委員長が丁寧に答えていきました。質問等に関しては予め学級で検討し、それについて事前に各委員会で回答内容について話し合っていました。



6年生を中心に事前の準備から本番の運営まで、子どもたちは大変頑張っていました。児童会の活動が盛んになれば、子どもたちの生活にも「もっとこんな学校にしていきたい」という目的意識が生まれます。



いよいよ始まった今年度の児童会活動。子どもたちが自分事として取り組み、ますます学校生活が活気のあるものになっていくことを楽しみにしています。

## 今年度より本校に学校司書が

今年度より本校に学校司書が配属となりました。担当の小島先生についてはすでに学校だより第2号の職員紹介でお知らせしておりましたが、学校司書が単独の学校に配属になるのは道東初となります。学校司書の小島先生が着任して2ヶ月となりますが、今まで混在していた低学年の読み物と絵本を分けて配架（図書室・図書館で本を分類に従って棚に並べること）し、注目してほしい本を「面出し」（表紙を見せて飾ること）するなどして、子どもたちも目的の本を探しやすくなりました。また図書室全体のレイアウトにも、いろいろと子どもたちの興味・関心を高める工夫をしてもらっています。



季節ごとのコーナーの工夫もしてもらえました。現在は春と言うことで、「花と野菜」をテーマに関連する本を集め、展示しています。子どもたちが読書を通して知識を深めたり、興味を広げたり、想像の世界を楽しんだり、読

書のよさをもっともっと感じてくれたらうれしいです。道東初ということで周りに参考となる学校もなく、試行錯誤をしながら進めている学校司書の取組ですが、情報館での経験を生かした小島先生の働きに大きく期待しています。



## 真龍読み聞かせ隊オススメの本

えんとつ町のプペル

著者 にしの あきひろ

『信じぬくんだ。たとえひとりになっても』

ゴミ人間（プペル）は、自分達とは違う異質な存在といううわさで町中の嫌われ者になってしまいます。

唯一の理解者であったえんとつそうじ屋のルビッチも、プペルと仲良くしているという理由で学校でイジメられ、とうとうプペルから離れていってしまいます。

そんな中、誰にバカにされても、笑われても臆せずプペルが取り続けた行動とは・・・

どうしても周りに流されがちな現代社会の風潮の中、自分が信じた道を進む勇気を与えてくれる一冊です。



真龍お話し隊

鈴木 直人